平成26年2月28日 エネルギー戦略協議会事務局

## 洋上風力発電システムの開発に係る取りまとめ意見

## ● 技術の展開に係る戦略について

- -洋上風力発電システムは、建設コスト等が嵩み経済性に劣ることから、コストダウンが最重要課題である。そのような技術の研究開発にあたっては、エネルギー政策における長期的なビジョンを明確にした上で、インフラ整備も合わせて継続的に推進すること、発電コスト目標を定めて事業の効果を評価しつつ進めることが重要である。
- -また、日本が世界をリードするチャンスのある技術であることから、日本 の成長戦略においても位置付けは重要だと捉えられる。このことから、海 外展開に向けての優位性を確保するため、技術開発に加え、標準化と知的 財産権の確保にも注力することが、今後の展開に向けて有効であると考え られる。

## ● システムの全体像を見据えた取組みの検討について

- -洋上風力発電システムの実装にあたっては、送変電システムやメンテナンス等を含め、多様な技術が必要になると考えられる。大規模導入時の系統安定化対策も含め、将来のあるべき姿を想定して、普及に必要な技術体系の抜けの無い推進が必要と考えられる。
- 取組みの推進にあたっては、省庁間の連携強化、情報共有を行い、適切に 事業の修正や投資の見直しを行えるような体制が必要と思われる。

## ≪参考: A P特定時における特記事項≫

- -本施策は、将来的な超大型の浮体式洋上風力発電システムの開発に向けて、洋上風況 観測システム、着床式洋上風力発電システム、小中規模浮体式洋上風力発電システム の開発を行うものであり、コンポーネント等を含む周辺産業に対する経済効果も大き いことから、意義は認められる。
- -経産省が近々での実用化を目標とする大型着床式洋上風力の開発、環境省がより先の 実用化を目標とする浮体式洋上風力の開発に伴う環境影響調査等といったように、明 確な役割分担のもと両省が一体となって推し進めており、成果の効率的な受渡や活用 が見込める点についても評価される。
- -今後は、電力系統を含めたトータルなシステムの検討など、当該施策の成果を普及展開させるための計画や施策連携が必要である。